

14:40
～15:05テ
マインクルーシブな組織文化を育むために
～20年にわたるブラインドサッカー支援と従業員エンゲージメントの実践～

アクサは、2006年からブラインドサッカー支援を通じ、当たり前になりつつある社会を目指す啓発活動に取り組む、従業員にはパーパスを体現するアクションとして参画を促し、従業員のエンゲージメントとインクルーシブな組織文化を醸成してきました。その取組を紹介します。

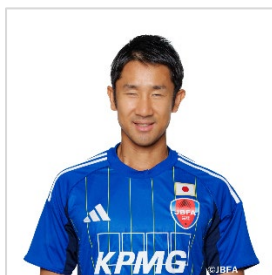
■登壇者

**土井 恵(どい めぐみ) 氏**

執行役員 チーフサステナビリティ&エンゲージメントコミュニケーション本部長

2022年アクサに入社。シンプリフィケーションオフィスヘッド、執行役員 チーフサステナビリティ&シンプリフィケーションオフィサーを経て、2024年に執行役員 チーフサステナビリティ&エンゲージメントコミュニケーション本部長に就任。

従業員エンゲージメントやサステナビリティに関連するイニシアティブの推進を担う。

**川村 怜(かわむら りょう) 選手**

コミュニケーション・ブランド&サステナビリティ

ブラインドサッカー男子日本代表主将

2013年アクサに入社。同年ブラインドサッカー男子日本代表に選出され、2016年に主将に就任。

パラリンピックには東京2020、パリ2024と2大会連続出場。代表通算ゴール数は93で日本人最多を誇る(2026年5月現在)。地域ではクラブチームの『品川CC パペレシアル』に所属し、アクサでの業務と競技活動を両立しながら、インクルージョン&ダイバーシティ推進にも貢献。

事例紹介②

日本電気株式会社(NEC)

15:10
～15:35

テーマ

NEC が模索する、企業におけるパラスポーツ支援のあり方 ～社会価値の創出と人的資本の強化を両立するために～

NEC は「協賛」という形だけではないパラスポーツへの関わり方を模索しています。企業におけるパラスポーツ支援の意義や、NEC にとっての価値をめぐる問いに向き合う担当者のリアルな葛藤、実際に取り組んだ事例をご紹介します。

■登壇者



青木 一史(あおき かずふみ) 氏

コーポレートコミュニケーション統括部 社会価値コミュニケーショングループ プロフェッショナル

2001年 NEC に入社。金融システム開発部門や人材開発部門を経て、
2015年から東京2020オリンピック・パラリンピックの部門でパラスポーツ推進を担当。
2022年から現職。コーポレートシチズンシップ(企業市民活動)やパラスポーツ支援を通じた企業価値向上の取組に従事。

事例紹介③

日本生命保険相互会社

15:45
～16:10

テーマ

日本生命のスポーツ取組について ～全国47都道府県に広げる「支えあいの輪」～

日本生命では、全国 47 都道府県のネットワークを生かしながら、所属アスリートや協賛競技団体に加え、自治体、地元企業と連携した取組みを各地で展開しています。

健常者スポーツとパラスポーツの融合を通じて、全国各地に共生社会の実現に資する機会を創出してきた軌跡や、全国各地で活動を継続していくための工夫やノウハウをご紹介します。

■登壇者



小田切 雄太郎(おだぎり ゆうたろう) 氏

サステナビリティ経営推進部 スポーツプロモーション担当部長

2010 年日本生命保険相互会社入社。
内部統制、グループ会社設立、経営企画、営業管理職等の幅広い業務を経験。
2025 年よりスポーツプロモーション領域の担当部長を務め、スポーツ領域の取組企画・推進を通じて、サステナビリティ社会への貢献、企業価値の向上に取り組んでいる。

16:15
～16:40テ
ー
マ「一緒に働く」から始まる共生社会の実現
～アシックスにおける社員パラアスリートとの挑戦～

アシックスでは社員パラアスリートと共に、パラスポーツを通じた共生社会の実現に取り組んでいます。
仕事と競技の両立や、共に働くことで生まれた職場の変化と企業の挑戦についてお伝えします。

■登壇者

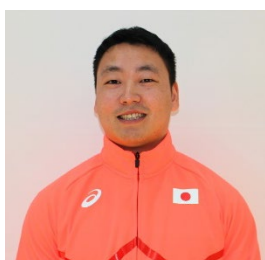
**大谷 忍(おおや しのぶ) 氏**

パラスポーツ企画部 部長

2024年よりパラスポーツ企画部長を務める。

社員パラアスリートと共に、パラスポーツを通じた共生社会の実現を推進。

社内外の理解促進や参画機会の創出、パートナーとの連携に取り組んでいる。

**新保 大和(しんぼ やまと) 選手**

人事部 組織・人財開発チーム

パラ陸上競技(円盤投 F37)

パリ2024パラリンピック4位入賞。2025年世界パラ陸上競技選手権大会(インド)銀メダリスト。

アシックス社員として働きながら競技活動を続け、仕事とスポーツの両立に挑戦している。